増田塾

“早慶上智・関関同立”合格保証

0120-243-759
（月～土11:00～20:00）
http://masudajuku.jp/

「関西学院大学公認 関西学院大学新聞」２月号で増田塾が紹介されました。

関西学院大学合格のための必勝法

――毎年難関大学の合格率８０％を誇る増田塾英語科講師の中澤先生を招いて関西学院大学英語対策について聞きました。

―まずは、長文読解の対策を教えてください。

■長文読解編

語彙は決して難しいわけではなく、設問も難問・奇問の類は出題されませんので、標準的な難易度の良問だと思います。ですが、時間の割に全体の分量が多く、時間内に解き切ることが出来るかどうかが鍵となるでしょう。速く正確に読む練習を日ごろからしておく必要があります。

まず、正確さを身に付けるには、ある程度の文法力と精読力は必要となります。決して難解な物に手を出す必要はありません。標準的な問題を、何度も何度も繰り返し練習し、自分で説明が出来るくらいになるまで練習をしましょう。

次に、パラグラフリーディングを身に付ける必要があります。段落内の論理展開を追い、各段落のトピックと主張を取っていきます。「抽象から具体」という、英文の基本的な論理展開をマスターする、ディスコースマーカーに着目する、といったことが必要です。

速さを身に付けるためには、音読が良いと思います。まず、意味の切れ目にスラッシュを入れます。目安となるのは、①前置詞句の前後②従属節の前後③準動詞句の前後④主節の主語の前⑤コンマです。この作業をするためには、やはり精読力は必要でしょう。

その後、スラッシュからスラッシュまでを一息で読み、その部分の日本語を頭に浮かべます。それを繰り返しながら、英文を読み切ります。この速度が上がれば、読む速度は上がります。

次に、設問毎の対策です。まず、空所補充ですが、様々な力が必要となります。まずはイディオムで処理が出来ないかを考えます。それが無理であれば、次は文法知識で処理を出来ないかを考えます。ここで文法力が問われます。文法知識を駆使しても処理できなければ、英文の構造を考えます。そこまで考えても無理であれば、最後は文脈を考えるというのは、「日本語に適当に訳して、入りそうな物を入れる」ということではありません。パラグラフリーディングで身に付けた論理展開の考え方を駆使し、それに適合する物を考えます。

同意表現選択については、同意語句・同意文とも、知識や精読で答えが出てしまう問題も多々あります。ただ、それでは片付けられない問題については、空所補充問題と同じように、論理展開を考えて答えを導いていきましょう。

内容一致については、「正しいものを選ぶ」のではなく、「誤った内容の選択肢を消去する」というスタンスで臨めば良いでしょう。正解の選択肢は、本文中の単語をそのまま用いず、言い換えられています。「選択肢中のこの単語は、本文中ではこう書かれている」という具合に照合していくと、かなり時間がかかります。それよりも、本文に書かれていない内容を消していく方が速いでしょう。

―次に、文法・語いの対策を教えてください。

■文法・語い編

学習の際に留意しておいて欲しいのは、「なんとなく答えを選ばない」ということです。「なぜこれが正解なのか」「他の選択肢はなぜだめなのか」ということを、他人に説明できるくらいになって欲しいと思います。

語句整序ですが、これを苦手とする受験生が多いように思います。整序はまず、「必ずくっつけなければならないものからくっつけていく」ということが大切だと思います。例えば、to の後ろには何がくるのか、have の後ろは、他動詞の後ろに目的語があるか、等、文法の原則に沿って、単語を組み合わせていくことです。そうして作った、いくつかのかたまりを、最後に並べ替えれば良いでしょう。英作文については、読解とは別教科だと思っておいてください。これは読解とは全く違う対策が必要です。やはり自分で書ける英文を増やすことです。自分の知っている表現で書く、これが英作文の鉄則だと思います。難しい英文を書く必要はありません。知っている表現で、ミスのない英文を書くことです。普段から、基本例文をたくさん覚えておきましょう。

―最後に会話文の対策をお願いします。

■会話文対策

基本的な会話表現は知っておくに越したことはないですが、特に会話表現の暗記に走る必要はありません。

まずは、全体を読み切ります。そして、会話の流れから、空所にはどのような内容を入れなければならないのかを、予め考えておきます。その後、各選択肢を精読し、内容にあうものを選択して行けば良いでしょう。

―本日はお忙しいところ有難うございました。

「立命館大学公認 立命館大学新聞」12月号で増田塾が紹介されました。

立命館大学合格のための必勝法

――毎年難関大学の合格率８０％を誇る増田塾英語科講師の中澤先生を招いて立命館大学英語対策について聞きました。

●長文読解対策

語彙は決して難しいわけではないので、標準的な難易度の問題だと思います。ですが、時間の割に全体の分量が多く、時間内に解き切ることが出来るかどうかが鍵となるでしょう。速く正確に読む練習を日ごろからしておく必要があります。

まず、正確さを身に付けるには、ある程度の文法力と精読力は必要となります。決して難解な物に手を出す必要はありません。標準的な問題を、何度も何度も繰り返し練習し、自分で説明が出来るくらいになるまで練習をしましょう。

次に、問題毎の対処法です。まず、立命館大学の英文は、注釈が他大学と比べてかなりたくさん付きます。大問Ⅰ、大問Ⅱ共に、まずは注釈から目を通します。注釈は、「この語句を知らないと、本文を理解するのに苦労する」という語句に付きます。これらを先に目を通してしまえば、本文で触れられている題材が何なのか、分かってしまうこともあります。

さらに、大問Ⅰは、説問に先に目をとおしておきます。設問には、本文で描写されている事実が既に書かれているため、目を通しておけば、本文の内容の理解の手助けとなります。ただし、内容一致には目を通しておく必要はありません。本文に書かれていない内容、本文の内容と反する内容が書かれている選択肢もあるので、ここで目を通してしまうと、変な先入観が入ってしまい、本文理解の妨げになる可能性があります。注釈と問いに目を通したら、段落毎にメモを取りながら、全文を読みきります。なお、英問英答ですが、これは、先に問いに目を通しているため、問いの該当箇所が出てきたらすぐに分かると思います。分かったらすぐに問いに移ってもらえば良いと思います。読みきったあと、内容一致に取り組みます。ここで、段落毎のメモが威力を発揮します。選択肢の内容及び段落毎のメモを見比べ、選択肢に関する記述がどの段落に書かれているのかを判断します。あとは、本文と選択肢を読み比べれば良いでしょう。

大問Ⅱの空所補充ですが、これは様々な力が必要となります。まずはイディオムで処理が出来ないかを考えます。それが無理であれば、次は文法知識で処理を出来ないかを考えます。ここで文法力が問われます。文法知識を駆使しても処理できなければ、英文の構造を考えます。そこまで考えても無理であれば、最後は文脈を考えます。ただ、この文を考えるというのは、「日本語に適当に訳して、入りそうな物を入れる」ということではありません。論理展開を考え、それに適合する物を考えます。英語の基本的な論理展開は「抽象から具体」です。さらに、１つのパラグラフでは１つのトピックしか扱いません。このことは頭に入れて、普段から英文を読んでいきましょう。

代名詞については、前後をきちんと精読すれば、自ずと答えは出てくると思います。

●会話文対策

基本的な会話表現は知っておくに越したことはないですが、特に会話表現の暗記に走る必要はありません。

まずは、全体を読み切ります。そして、会話の流れから、空所にはどのような内容を入れなければならないのかを予め考えておきます。その後、各選択肢を精読し、内容に合うものを選択して行けば良いでしょう。

●文法・語彙対策

大問Ⅳ.1.は基本的な文法事項を問う４択です。これは、日ごろから文法をきちんと学習していれば大丈夫だと思います。ただ、学習の際に留意しておいて欲しいのは、「なんとなく答えを選ばない」ということです。「なぜこれが正解なのか」「他の選択肢はなぜだめなのか」ということを、他人に説明できるくらいになって欲しいと思います。.2.は誤り選択ですが、これもやはり、前述の「なぜこれが正解なのか」「他の選択肢はなぜだめなのか」ということを考えながら学習していくことが大切です。正確知識の運用を心がけながら勉強して下さい。なお、答えがすぐに見つからない場合は、文構造を取ることでも見つかることもあります。接続詞の使い方の誤り、関係詞の使い方の誤り等がこのパターンです。

大問Ⅴの整序問題ですが、これを苦手とする受験生が多いように思います。整序はまず、「必ずくっつけなければならないものからくっつけていく」ということが大切だと思います。例えば、to の後ろには何がくるのか、have の後ろは、他動詞の後ろに目的語があるか、等、文法の原則に沿って、単語を組み合わせていくことです。そうして作った、いくつかのかたまりを、最後に並べ替えれば良いでしょう。

大問Ⅵは語彙・語法の問題です。これは、単語をたくさん覚えること、語法を覚えることに尽きると思います。特に語法は、たくさん問題を解きながら覚えていくと良いでしょう。